

かとうゆうすけ 無所属/29歳/浦賀出身

加藤裕介



- 1988年 3月8日生 浦上台出身 家族:父母弟1人 浦賀小・中卒
 - 特技:中国語 ■趣味:ドラム ソフトテニス 釣り
 - 2006年 県立横須賀高校(58期)卒業 ソフトテニス部
 - 2007年 吉田雄人インターンシップ生
 - 2008年 南開大学(中国・天津)へ派遣交換留学
 - 2010年 慶應義塾大学法学部政治学科卒 (株)ワーク・ライフバランス インターンシップ生
 - 2012年 アクセンチュア(株)退社、復興支援のため福島に移住し、復興支援団体 (一社)BridgeforFukushimaの職員として勤務。
 - 2014年 復興庁福島復興局政策調査官を兼任。
 - 2016年 4年半の復興支援を経て、横須賀へ戻ることを決める。
- 所属:(一社)Bridge for Fukushima 職員

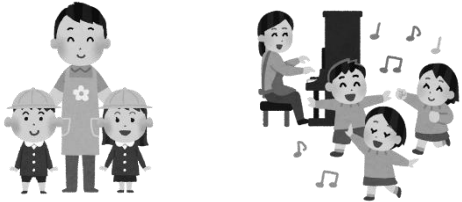
090-7710-7281(本人携帯) 

<http://katoyusuke.net>  “加藤裕介”

mail@katoyusuke.net  @katoyusukeYK

今回お伝えする政策

子どもを産み育てたいと思える社会
働き続けたいと思える社会
これを実現するため、
「保育園に落ちない横須賀」と同時に
「保育士が働きやすい横須賀」も
目指します。



【加藤裕介後援会にご入会 いただけるかたを募集中。】 応援してください！

加藤裕介の政策を支持して下さる方の「見える化」に努めております。ご友人をご紹介いただくのも大歓迎です。

- 入会方法
- ①本人にお声かけください。お名前、ご住所、ご連絡先を記入いただく用紙をお渡します。駅でのお声かけでも、お電話でも構いません。本人が伺います！
 - ②「住所はちょっと・・・」というかたは、ぜひメールを下さい。メール会員としてのご入会も歓迎です。

※入退会はいつでも可能です。入会により、何らかの義務や、会費支払いが発生することはありません。※名簿は、①活動のご報告、②電話での支援依頼、③ご訪問してのご挨拶以外の用途には使用しません。



市民と行政と一緒に考えながら、 誰もが暮らしやすい街をつくりたいと考えております。

例えば、ガードレールがなくて、道幅が狭くて、交通量が多い道路。小さな子どもの通学には不安ですし、足が不自由なかたがよろめいて車道に出てしまっては大変です。横須賀市内にはこうした道路、たくさんありますよね？もちろん、ガードレールを設置して解決する場合もあります。けれど、自転車が走りにくくなってしまったり、自動車がすれ違いにくくなり却って危険になってしまったら？

こういうときこそ、市民と行政と一緒に考える必要があるとおもいます。例えば、市内では既に、小学生の通学を見守ってくださるボランティア団体のかたが通学時間帯に付き添ってくださる地域も多く、安心感と安全性の向上が市民と行政の協力で、はかられています。自分一人では変えられなくても、同じ思いを持つ人の共感を集め、みんなで一緒に取り組めば、時間とお金をかけずに、安心できる道路に変えることができます。

私が目指す横須賀の姿は、「何度でもチャレンジできるまち」「地域で頑張る人が輝けるまち」「じぶんごと化できるまち」です。



引用:googleマップ。浦上台トンネルの上公園の前です。私が小学校5年生の時にできました。自転車で行くと車が横をびゅんびゅん通って怖かった思い出が。。。

裏面へ続く

「保育園に落ちない横須賀」と同時に 「保育士が働きやすい横須賀」も目指します。



✓現状

①：「待機児童」が19名。「保留児童」が138名。(※1)

保育をめぐる横須賀の現状は、子育て世帯だけでなく、その親世代にとっても、深く関係しています。駅でチラシをお配りしていたら、小さいお子さんの手を引いた女性が話しかけてくださいました。「横須賀は地方だから待機児童なんていないと思ってたら、まさかうちの孫が保育園落ちるなんて」。希望の園に入れず、娘さんご夫婦は通勤経路を大きく外れたその園に送り迎えできないため、お話しして下さった女性が送り迎えをしていました。この話には続きがあります。その女性は「仕事をしていて、送り迎えで一日3時間使っている」のだそうです。一日3時間、一週間平日5日間で15時間、一か月で約60時間。もし、この女性が、この60時間働けていたら、どれだけのお給料が得られたでしょう？これでは、「働きたい！」という思いに、制限がかかってしまうと思いませんか？

②：保育士さんの負担も軽減しないと、保育園を増やしても「待機児童」は解消されません。

保育園を増やすことも大切ですが、そこで働く保育士さんがいなければ保育できる児童の数は増えません。しかし、その保育士さんを見つけるのもとても大変なのです。理由の一つとして、「待遇の悪さ」があります。全国の保育士さんの平均月収は21.9万円(※2)。他の全部の産業の平均月収31.9万円(※3)と比べると、**10万円も少ないです**。認可保育所の運営費は「保護者からうけとる保育料」と「税金からうけとるお金」で賄われていますので、保育料を上げるか、国・県・市が税金から補助をするか、いずれかの方法をとる必要があります。



✓政策内容

正規雇用・非正規雇用関係なく、保育士さんの給与を上げて、もっと多くの保育士さんが横須賀で働き続けられるようにし、認可保育所の定員を増やします。

横須賀市の平成29年度予算では、「待機児童ゼロに向けた取り組み」として「保育現場等での慢性的な人員不足解消のため、保育士等の処遇改善のための助成(2%相当の上乗せなど)」とされていますが、**21.9万円の2%とは、たった4,000円です**。「子育て世帯に選ばれるまち」にするのであれば、さらに増額して、本気の姿勢を見せる必要があると思いませんか？また、「待機児童ゼロ」はもちろん必達目標ですが、「保留児童」にも対応できるように、認可保育所の定員も、少なくとも138名増やすことを目指します。

✓効果

「保育園に落ちないなら、私も働きたいし、二人目も生みたい」と思えるようになり、横須賀市が子育て世帯に選ばれるようになります。

※1 待機児童数は(「保育所等利用待機児童数の状況について」神奈川県県民局次世代育成部次世代育成課、2016年6月8日記者発表資料)による、2016年4月1日時点の待機児童数。保留児童数は「横須賀市議会平成28年第4回定例会本会議(11月29日)」会議録より。
 ※2 ※3 「平成27年賃金構造基本統計調査 1職種別きまって支給する現金給与額、所定内給与額及び年間賞与その他特別給与額」(厚生労働省)より、「きまって支給する現金給与額」(男女計・企業規模計(10人以上))。全産業平均は、同調査の全職種の「きまって支給する現金給与額」の平均。

疑問

実際、子どもってどれくらい生まれれば、日本社会は今の規模を維持できるの？維持する必要って、あるの？

合計特殊出生率	2005年 (過去最低)	2015年
全国	1.26	1.45
横須賀	1.20	1.33

「合計特殊出生率」というのは、「女性が出産可能な年齢を15歳から49歳まで」と仮定したときの、一生に出産する子供の数の平均です。

・世の中の男性・女性の比率が 1:1 で、
 ・すべての女性が49歳まで確実に生きる
 ならば、合計特殊出生率が2 = 2人で2人産む なので、人口は変わらず維持されます。

実際には、世の中には男性が少し多かったり、若くして亡くなる女性もいるので、約2.06が人口維持の目安ですが、人口規模を維持する必要があるのかは、また別の話です。「産みたいと思う人が産める社会にする」ことは大切ですが、「社会を維持するために産んでもらう」という発想は、私は違うと思うのです。

私は「二人以上子どもがほしい」という思いも「子育てより仕事に励みたい」という思いも、尊重される社会を目指します。それを達成した上で2.06まで回復できれば、喜ばしいです。

※ 合計特殊出生率 全国は人口動態統計(平成27年)、横須賀市は「衛生年報 平成28年度」による。